

小学校の遠足で高速道路を通った時、バスガイドさんが舗装され平らな路面の話をしていて、ガタガタ揺れずに走れる道路に感動しました。当時は身近にある道路がほとんど未舗装だった時代、舗装技術のすごさが記憶に残ったことも土木の世界を志す一つのきっかけになりました。

オイルショック後の就職難でしたが縁あって当社に入社し、倉敷営業所に配属されます。最初の勤務地は観光の街である倉敷駅前の改良工事。5月の大型連休中も休みなく現場に出ている時、昼休みに重機の上で弁当を食べながら、駅から出てくる観光客の姿をうらやましく眺めていたのを思

土屋 聡氏

い出します。若手時代は覚えることが多いと、日々新しい出会いもありません。元請の監督や下請の世話役によく叱られました。現場の雰囲気はともアットホームでした。若手の失敗を許容するゆとりが当時の現場にはあったのでしよう。

数カ月後に赴任した大規模な造成現場では測量を任せられました。舗装工だけでなく下水管や配水管、門扉、防火水槽など多様な工種を見ることができ、多くのことを学びました。完成まで大きなミスもなく、所長からは「測量ミスがあるのでは」と思ってた手直し代を積んでおいたが使わずに済んだ」と褒められたことが



入社1年目。出雲を巡った社内旅行で（左から2人目）

人とのつながりを財産に



族同伴で、苦勞を掛けたかもしれない。それでも各地にある名所や名産を楽しみ、多くの人たちと築いたつながりは仕事だけでなく、人生の財産になりました。単身赴任時代も含めて転勤を苦とせず、楽しく働いてきました。

族同伴で、苦勞を掛けたかもしれない。それでも各地にある名所や名産を楽しみ、多くの人たちと築いたつながりは仕事だけでなく、人生の財産になりました。単身赴任時代も含めて転勤を苦とせず、楽しく働いてきました。

言い出せず、少し様子を見ようかと黙っていて、気持ちよく仕事ができず自分の心もすっきりしません。とにかく周りにも自分にも正直であることが大切です。

建設業は厳しい仕事と思われがちですが、取り組んだ軌跡が残る素晴らしい職業であることに間違いはありません。インフラ整備や研究開発など幅広い事業活動を展開しながら、人々の生活をより良くするために日々取り組みのがわれわれの仕事。若い人たちにも仲間に加わってもらい、一緒に未来を切り開きたいと思っています。

(つちや・さとる) 1

980年立命館大学工学部土木工学科卒、前田道路入社。中国支店長や中部支店長、工務部長などを経て、2021年から現職。愛知県出身、65歳。

